

# 高知県の両生類

## 【現 状】

北海道から沖縄・南西諸島まで、日本列島には亜種を含めて、2目8科66種の多種多様な両生類が暮らしています。カエルのなかま（無尾目）が5科43種、サンショウウオやイモリのなかま（有尾目）が3科23種、全国に分布しています。

そのうち、私たちが暮らす高知県では現在、2目7科18種（移入種、1種含む）が確認されています。カエルのなかまは4科11種（移入種、1種含む）、サンショウウオやイモリのなかまは3科7種が確認されています。

しかし、高知県レッドデータブック【動物編】（2002）によると、無尾目であるニホンアカガエルおよびトノサマガエルが準絶滅危惧（NT）、有尾目ではカスミサンショウウオおよびオオイトサシショウウオが絶滅危惧ⅠA類（CR）、ハコネサンショウウオおよびブチサンショウウオが絶滅危惧Ⅱ類（VU）、オオダイガハラサンショウウオが準絶滅危惧（NT）、また、オオサンショウウオについては情報不足（DD）として、それぞれ様々な要因で数を減らしています（表1）。



写真2. トノサマガエル



写真1. ニホンアカガエル

また、高知県の自然環境は過去50年間で急速に変化し続けています。生態系に配慮せず、宅地開発のための森林伐採、また田んぼの基盤整備や河川改修工事などが進み、人間が管理しやすいように変えてしまいました。日本のみならず世界中で日々、乾燥化や乾田化が進み、両生類たちがどんどん姿を消しつつある状況が報告されています。

## 【変 化】

両生類のなかまは産卵する水辺と生息する森（陸地）が必要であり、生態系の自然環境・バランスを測る、とても重要なバロメーター・環境指標生物だと言われています。

環境省は、移入種のウシガエルや海外から持ち込まれる外来種において、2005年6月1日より「特定外来生物法」を施行しはじめました。日本の生態系や人に影響・被害を及ぼす恐れがある種が対象で、捕獲や飼育、野外へ放したりすることなどを防止する法律です。

カスミサンショウウオは、1967（昭和42）年ごろ、県東部のごく限られた地域で生息していましたが、里地里山に住む人の減少による耕作放棄地、生息地が埋め立てられるなどの要因で、現在では



写真3. オオサンショウウオ

きく（NT）に、国の特別天然記念物に指定されています。

ブチサンショウウオは、高知県を含む四国、近畿、本州中部以西、九州（北西部を除く）に分布しますが、中国、九州北西部の個体群とは形態的または遺伝的に異なる種として報告（2008）があり、現在、高知県に生息する種はコガタブチサンショウウオとなっています。また、四国に生息するオオダイガハラサンショウウオの個体群も同じく、数年後にはイシツチサンショウウオとなり、3科24種と新たに独立種が増えることとなります。

40年近く確認出来ていません。

オオサンショウウオは、2004年7月14日、高岡郡おちよ町に淀川支流・坂折川で体長約20cm、外鰓のあつてきた。ただ、四国における分布は、人為的か自然分布なのかは謎のままで、今後DNAなど遺伝生化学的な解析に委ねるしかありません。また2004年より、県内で発見された個体には個体識別管理用にマイクロチップを埋め込む作業を継続しています。なお、本種は環境省レッドデータブックにおいては準絶滅



写真4. コガタブチサンショウウオ

## 【人との関わり】

高知県においても生態系や生物多様性について、環境保全や日本固有種の保護を目的にさまざまな活動や取り組みを積極的に進めていかなければなりません。

日本中の両生類が絶滅の危機にあると騒ぎになった「カエルツボカビ症」。私たち動物園水族館の飼育担当者たちはとても心配しました。さらに、両生類を脅かす病原体「ラナウイルス」や感染症など次々発見されており、感染要因の解明や日本固有種の室内累代繁殖技術確立など、早急な対策が必要になります。

「ふゆみずたんぼ」＝冬期湛水水田の普及を広げましょう。これまで基盤整備や農薬、科学肥料など生態系を脅かしてきた私たち。冬もたんぼに水を張り、鳥やイトミミズの棲みかを増やし、糞で土を肥やす米づくり農法に切り替えませんか。棲みかとなる湿地が増えれば、カエルなどの両生類や水生昆虫も増え、豊かなたんぼになります。また、「高知シラサギ米」など、無農薬で作られるお米自体のブランド化にもつながっていきます。

これからの私たち人間は、生きものたちや自然とうまく共生し支えあいながら、暮らしていかなければなりません。

吉川貴臣（わんぱくこうちアニマルランド）

表1. 高知県に生息する両生類 2目7科18種

目	科	種	学名	高知県 レッドデータ評価
無尾目	アマガエル科	ニホンアマガエル	<i>Hyla japonica</i>	普通種
	アマガエル科	シュレーゲルアオガエル	<i>Rhacophorus schlegelii</i>	普通種
		カジカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>	普通種
	アマガエル科	ツチガエル	<i>Rana rugosa</i>	普通種
		ヌマガエル	<i>Fejervarya limnocharis</i>	普通種
		タゴガエル	<i>Rana tagoi tagoi</i>	普通種
		トノサマガエル	<i>Rana nigromaculata</i>	準絶滅危惧 (NT)
		ヤマアカガエル	<i>Rana ornativentris</i>	普通種
		ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>	準絶滅危惧 (NT)
		ウシガエル	<i>Rana catesbeiana</i>	移入種
ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	<i>Bufo japonicus japonicus</i>	普通種	
有尾目	オオサンショウウオ科	オオサンショウウオ	<i>Andrias japonicus</i>	情報不足 (DD)
	サンショウウオ科	カスミサンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus</i>	絶滅危惧ⅠA類 (CR)
		オオダイガハラサンショウウオ	<i>Hynobius boulengeri</i>	準絶滅危惧 (NT)
		オオイタサンショウウオ	<i>Hynobius dunni</i>	絶滅危惧ⅠA類 (CR)
		ハコネサンショウウオ	<i>Onychodactylus japonicus</i>	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
		コガタブチサンショウウオ	<i>Hynobius yatsui</i>	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
	イモリ科	ニホンイモリ (アカハライモリ)	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	普通種

